

タイ

景気は減速、先行きも
弱い動きが続く見込み

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

研究員 塚田 雄太

E-mail: tsukada.yuta@jri.co.jp

■ 4～6 月期の成長率は +2.8%

2015 年 4～6 月期の実質 GDP は前年同期比 +2.8% と 14 年 1～3 月期以来、5 四半期ぶりに減速した（右上図）。これを受け、タイ中央銀行は 9 月の「金融政策レポート」で 15 年の成長率見通しを 6 月時点の +3.0% から +2.7% に下方修正した。需要項目別にみると、予算執行の増加に伴い政府消費は同 +4.6% と前期（同 +3.3%）から伸びが加速したもの、民間消費と総固定資本形成がそれぞれ、同 +1.5%（1～3 月期：同 +2.4%）、同 +2.5%（同 +10.7%）と減速したほか、輸出も同 +1.0%（同 +1.0%）と低迷した。民間消費の減速は、景気回復の遅れに伴う消費者マインドの悪化や干ばつによる農業所得の伸び悩みが影響した。総固定資本形成では公共投資が堅調なものの、景気の先行き不透明感から民間投資が減少した。輸出も、景気が減速基調にある中国向けや ASEAN 向けの減少が全体を下押しした。

足元でも景気は弱い動きが続いている。実質 GDP の民間消費と民間投資との連動性が高い民間消費指数、民間投資指数は 7～8 月平均が 4～6 月平均対比、それぞれ、+0.6%、+0.5% と小幅な上昇にとどまっている。また、7～8 月の輸出数量指数は前年同期比 ▲1.6% と前年割れとなっている。

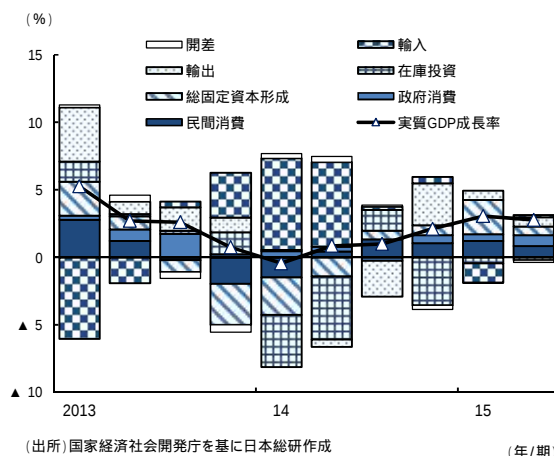
当面を展望すると、予算執行の加速やソムキット経済担当副首相が 9 月に打ち出した農村・中小企業支援等を骨子とする経済対策が景気押し上げに寄与すると期待されるものの、世界景気の減速を受けた財輸出の伸び悩みが続くと見込まれ、大幅な持ち直しは期待できないであろう。

■ 先行き不透明なタイの観光業

景気の先行きに新たなリスクも浮上している。14 年末以降、内需と財輸出が力強さを欠くなか観光客の増加に伴うサービス輸出の増加が景気持ち直しに大きく寄与してきた（右下図）。もっとも、15 年 7～8 月の観光客数は、バンコク連続爆破テロ事件の影響を受け前年同期比 +31.7% と 4～6 月期から伸びが鈍化しており、7～9 月期のサービス輸出も減速することが懸念される。

テロの影響について、タイ観光庁は一時的との見方を示している。しかし、テロの影響が一時的にとどまっても、先行きを楽観視はできない。同国への観光客の約 2 割を占める中国をはじめとした世界景気の減速や 14 年末からの観光客回復の効果一巡などを勘案すれば、今後も力強い伸びが続くかは不透明である。政府はテロや足元の海外経済情勢を踏まえ、観光客誘致へ向けたプロモーションを強化しており、その効果が注目される。

< 実質GDP成長率と需要項目別寄与度 >



< 訪タイ外国人観光客数とサービス輸出 >

